# さぶちゃん奮戦記 ⑰

## ―菅原工務店創業物語―

菅原　順一

# 「開拓の心」を伝承する喜び

夢のような話だ…

第一声はそんな言葉が口をつきました。親父でもある弊社会長の生涯を辿る、菅原工務店創業物語の連載の話を聞かされた時の第一印象は、まさにそんな心情でした。実際に紙面を拝見し、回を重ねるごとに反響があり次第に掲載のペースが増えていきました。

私もはじめての内容が多くあり、気が付けば一読者として、物語に引き込まれていきました。地元の風景や時代背景、さらには当時の世相が伝わる展開は単なる自叙伝とは一線を画すものでした。私のような団塊ジュニア世代、さらに地元大崎で未来の暮らしを担う次世代へと読み継がれてもらいたいと感じています。

著者の伊藤卓二社長には大変貴重な機会を頂き、この場をお借り致しまして心より感謝申し上げる次第です。伊藤社長には以前に「第2おおさきメガソーラー」の竣工祝賀会にお越しいただいたことがありました。太陽光発電事業の立上げ当初から、紙面を通じて多大なるご支援を頂いておりどうしても感謝をお伝えしたいという思いからでした。

連載も終盤を迎えたころに、一度じきじき社長室にお招きいただき、親父と一緒にお話をさせて頂いた際に、その時の会場でのやりとりが今回の執筆にもつながっていることを確認させていただきました。

そして、その時、親父の幼少期からの苦労話に触れつつも、強運ともいえる持ち主で「出会い」に恵まれてきたことを私にお話しされたのが、とても印象的でした。

話はかわりますが、今回はたくさんの秘蔵写真も登場すると同時に、「水戸黄門の歌」や「放浪の旅の話」など我が家では有名すぎるエピソードも紹介されています。もちろん気恥ずかしいところもありましたが、それ以上にとても懐かしい気分にさせられました。途中からは、友人や知人にも私はいつになったら登場するのか聞かれることも多くなりました。

ところで、今回の文中で最も印象に残る言葉があります。それは「開拓」という言葉です。

私自身、何度も聞いてきた言葉ですが、物語が進むにつれ、それは人並みならぬ苦労や試練を意味するだけでなく「希望」や「喜び」を表すものなのだと心に沁みてきました。

物語を読み終えて、時代の変化はあれど、成功を信じること・苦労を楽しむこと・人に喜ばれることを大切にして進んで行けたらという思いを新たにしました。

そして親父が大事にしてきた「開拓の心」を少しでも伝承する事が出来たら何よりの喜びです。

創業時の苦労には到底及びませんが、今後の会社経営において、さらには自分の生き方において、この「さぶちゃん奮戦記―菅原工務店創業物語」はとても大切な羅針盤となるに違いありません。

あらためて会社の原点・人生の原点を精魂込めて伝えてくれた親父にはこの場をお借りしまして、感謝を伝えたいと思います。

最後に、家族としてはこのような「夢のような話」を物語として形にしていただいた伊藤社長にあらためて心より御礼申し上げます。

古川旭にある菅原工務店。左が事務所、真ん中が展示場「CASATAⅡ」、右奥がアイムショールーム。